秋田県

土木工事共通仕様書

平成29年10月1日以降適用

出来形管理基準

【土地改良編】

赤字:秋田県独自項目

青字:今回改訂部分

(H29.10.1改訂)

-表紙(裏)空欄-

目 次

出来形管	理基準(土	地改	(良	編)																										
1.	共通工事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•]
2.	水路工事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
3.	頭首工工事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Ć
4.	河川護岸工	事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Ć
5.	道路工事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Ć
6.	農用地造成	工事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	11
7.	ほ場整備工	事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	12
8.	暗渠排水工	事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	13
9.	橋梁工事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	13
10.	畑地かんが	いエ	事		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
11.	公害防除特	別土	:地	改	良	事	業		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
12.	海岸河川工	事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
13.	地すべり工	事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
14.	ため池工事	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16

17

15. 公園緑地工事

別表1直接測定による出来形管理

	₹1旦接側だによる山木が目り 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
1・共通工事	掘削	基準高(V) 幅(W) 法長(L) L < 5 m L ≥ 5 m 施工延長	±50 -100 -200 法長の-4% -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2箇所。 河川土工の基準高は、掘削部の両端で測定。 道路土工の基準高は、道路中心線及び端部で測定。	士砂 W ₂ 大河 V T T T T T T T T T T T T T T T T T T
	盛土	基準高(V) 幅(W) 法長(L) L < 5 m L ≥ 5 m 施工延長	± 50 -100 -100 法長の-2% -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2箇所。 河川土工の基準高は、各法肩で測定。 道路土工の基準高は、道路中心線及び端部で測定。	W ₂
	石積工 ブロック積工 石張工 ブロック張工	基準高(▽) 厚さ (t1) 厚さ (t2) 法長(1) 1 < 3 m 1 ≧ 3 m 施工延長(L)	± 50 - 50 - 50 - 50 - 100 - 200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2箇所。 厚さは、上端部及び下端部の2箇所を測定。	

別表1直接測定による出来形管理

乃 及 1 巨	L接測定による出米形官: 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
1 基礎		基準高(V)	大大行 le ± 50	全数について杭中心で測定。	(別た直)/1
· 木杭	176117	偏心量(e)	± 50	主教に少いて批けたで例と。	
# 71/	, クリート杭	木杭	なし	=	
通鋼管		コンクリート杭)	D/4以内かつ	-	· v
工場所		鋼管杭、H鋼杭 }	100以内		
			100以内		
事深礎	17几	場所打杭	150以内	=	
		根入長	1506/1	=	
			Jo 2	_	bi \i
		木杭	なし		(T0)
		コンクリート杭 鋼管杭 場所打杭 深礎杭	設計値以上		$e = \sqrt{x^2 + y^2}$
		傾斜	4 /4 00 Dt		e=√x²+y²
		コンクリート杭 鋼管杭、場所打杭	1/100以内		
		深礎杭	1/50以内	※ライナープレートの場合はその内径、補強リング	
		杭径		を必要とする場合は補強リングの内径とし、モルタ	
		場所打杭	設計経(公称経)-30以上	ルライニングの場合はモルタル等の土留め構造の内	
		深礎杭	設計経(公称経)以上※	径にて測定。	
矢板:	打工	基準高(▽)	± 50	基準高は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は50	
		変位(1)	100	m) につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のも	<u>. L</u>
		施工延長(L)	-200	のは1施工箇所につき2箇所。	
		根入長	設計値以上	変位は、施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所、延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	-nanan
オー		基準高(▽)	±100	構造図の寸法表示箇所を測定する。厚さ、幅、高	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$
		厚さ(t)	- <u>20</u>	さ、長さ、偏心量については、1ロットごとに測定	$\alpha - \gamma x + y$
		幅(w)	- 50	する。	k 4
		高さ(h) 長さ(1) 偏心量(d)	—100 — 50 300以内		
					d

別表1直接測定による出来形管理

別衣 1 直接側とによる田米形で 工種	□ 項目	規格値	測定基準	測定箇所
1 吹付工(仮設を含む)	法長(1)	州市區	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施	
・ (コンクリート)	1 < 3 m	- 50	工箇所につき2箇所。	
共 (モルタル)	1 ≥ 3 m	-100	測定箇所に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場	🔈 🗸
通	T ≡ O III	100	合は直線法長とする。	The state of the s
編	吹付厚さ(t)		200m ² につき1箇所以上、200m ² 以下は2箇所をせん	
12 ma	t < 5 c	- 10	200m につき 1 固別以上、200m 以下は2 固別をせん	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	t ≧ 5 c	- 20	北により側足。	\ \ \
		る場合の最小吹付厚は、設計厚の	-	\ \ \ \
	50%以上とし、平均厚は設計			l \\
	00/05/12 0 1 10/4/06	177-57工。	-	\ <i>J</i>
	施工延長(L)	-200	1施工箇所毎	
	75-17-17-17-17-17-17-17-17-17-17-17-17-17-			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
法枠工	法長(1)		施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	, a ,
(現場打法枠工)	1 < 1 0 m	-100	1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	
(現場吹付法枠工)	l ≥ 1 0 m	-200	につき2箇所。	
3-200	幅(w)	- 30	枠延延長100mにつき1箇所、枠延延長100m以下の	▎ ▗▋ ▃▃▋▃▗╴┰╏▃──┤ │
	高さ(h)	- 30	ものは1施工箇所につき2箇所。	
	吹付枠中心間隔(a)	±100		a h
	延長(L)	-200	1施工箇所毎	
	, , ,	_		
植生工	法長(1)		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	
(張芝工)	(左) (1) 1 < 5 m	切十一200	加工延安40m (関点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	
(筋芝工)	1 < 9 III	盛十一100	1 画別、40m (文は50m) 以下のものは1 旭工画別 につき2箇所。	
(爾之工)	1 ≧ 5 m			
(種子吹竹工)	1 ≤ 5 m	盛土 法長の一名%	-	
(恒生イットエ)	施工延長(L)	<u> </u>	1 施工箇所毎	
植生工	施工延長(L) 法長(1)	-200	1 旭工画別母 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	
(客土吹付工)	(左反(1) 1 < 5 m	-200	加工延安40m (関点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	
(植生基材吹付工)	1 < 5 III	200	「1 個別、40m(久は30m)以下のものは1 旭工個別 につき2 箇所。	
(恒工基份 外门工)	1 ≧ 5 m	法長の-4%		
	1 ≦ 0 III	(五尺の) 4 /0	-	
	厚さ(t)		施工面積200m2につき 1 箇所、面積200m2以下のも	
	t < 5 c m	-10	のは1施工箇所につき2箇所。	
	t ≥ 5 c m	-20	検査孔により測定。	
	平均厚さ≧設計厚さ		1次上101~5 / 171/仁。	
		ある場合の最小吹付厚は、設計厚の		
	50%以上とする。	グロックロックは1万円子は、以口字の		
	00 /0×1 C 7 'Jo		-	
	施工延長(L)	-200	1 施工箇所毎	
	旭上 烂 以 (L/	400	1 旭本闽川 暎	

別表1直接測定による出来形管理

別表1直接測定によると		10 16 14	Student State State					
工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所				
1 砂基礎	砕石基礎、栗石基礎を適用		Harrie I and Child Harrison of III A View A					
・切込砂利工		and the s	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	i · i				
共 砕石基礎工	幅(w)	設計値以上	1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所					
通 割栗石基礎工	厚さ(t1、t2)	- 30	につき2箇所。					
編 均しコンクリート	施工延長(L)	各構造物の規格値による		"1 ROSS				
				1				
				, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
		コンクリート 擁壁工	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	w ₁				
コンクリート付帯権		基礎 上	1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所					
コンクリート基礎	基準高(▽)	$\pm 30 \pm 50$	につき2箇所。	/				
コンクリート側溝	厚さ(t)	- 20						
コンクリート管渠	裏込め厚さ	– 50						
横断構造物	幅(w)	- 30 - 30		W ₂ W ₁				
コンクリート擁壁	高さ(h)	- 30						
その他上記に準ずる		- 50		J \ "\ [] "				
	h ≧ 3 m	-100		r.(
	施工延長(L)	-200 -200	1施工箇所毎	w ₂				
				₩1 ₩1				
				Ĭ <u>Ţ</u>				
				n n \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \				
				W ₂ W ₂				
		コンクリート コンクリート	管 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	t. W 1				
		側溝 渠・横断構造	物 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所	L H H				
	基準高(▽)	± 30 ± 30	につき2箇所。なお、製品使用の場合、製品寸法に					
	厚さ(t)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		h ₁ h ₂				
	幅(w)	- 30 - 30						
	高さ(h)	- 30 - 30						
	施工延長(L)	-200 -200	1施工箇所毎					
	76 X (E)	200		h				
				TIRII . IIRII				
				h h				
				\\ \(\)				
				W2				
精度を有するもの	基準高(▽)	± 20	構造図の寸法標示箇所を測定する。					
分水工計量部	<u> </u> 厚さ(t)	± 20	THE STANDARD TO STAND TO STANDARD TO STAND					
ゲート戸当部	幅(w)	± 10						
橋台沓部	高さ(h)	± 10						
	長さ(L)	± 10						
<u> </u>	K C (L)	<u> </u>		ļ				

別表1直接測定による出来形管理

別表1直接測定による出来が工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
1 U字溝	基準高(▽)	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	700人回//
・ U字フリューム 共 ベンチフリューム			1 箇所、40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所 につき2 箇所。	
通編	施工延長(L)	-200	1 箇所毎 / 1 施工箇所毎	
土水路	基準高(V) 幅(B) 高さ(H) 施工延長(L)	指定した時 ±100 -75 指定した時 -75 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所 につき2箇所。 1 施工箇所毎	
地下排水工 (ドレーン等)	基準高(▽) 幅(w) 深さ(h) 施工延長(L)	± 30 - 50 - 30 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工 箇所につき2箇所。 1施工箇所毎	W1
フトン篭工かご工	高さ(h) 延長(L1、L2) 基準高	-100 -200 -100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	La
標識工	設置高(H) 基礎幅(w(D)) 基礎高さ(h) 基礎根入れ長	設計値以上 - 30 - 30 設計値以上	1 箇所/基 基礎 1 基毎	w (D)

別表1直接測定による出来形管理

	表1直接測定による出来形管: 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
1・共通編	鉄筋組立	平均間隔(d)	- 	d = D n-1 D: n本間の延長 n: 10本程度とする φ: 鉄筋経 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに 対して各面で1箇所以上測定する。最小かぶりは、 コンクリート標準示方書(設計編:標準7編2章2.1) 参照。但し、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書(Ⅲコンクリート橋編6.6) による。 ※重要構造物かつ主鉄筋について適用する。	t 1
		かぶり(i)	±φ かつ最小かぶり以上	※橋梁コンクリート床版桁(PC橋含む)の鉄筋については、第3編3-2-18-2床版工を適用す ※新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25m2以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。	主鉄筋 Φ
		主鉄筋位置	± φ		最小かぶり※

別表1直接測定による出来形管理

別表 I 直接側正による出米形質 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
2 開水路 (現場打ち)	基準高(▽)		- 例と基準 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	例是回刀 tı W tz
2 州小路(先場打り)		<u> </u>	1 箇所、40m(又は50m)以下のものは1施工箇所	11 " t* 11 11
1:1	厚さ(t1、t2)			Tri Tri
水路	幅(w)	- 30	につき2箇所。	h. h.
路	高さ(h1、h2)	– 30	II. Hammer I.	n ₁
工	施工延長(L)	-200	1施工箇所毎	
事				.1
				#### ####
大型フリューム水路	基準高(▽)	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	
L型水路			1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	
ボックスカルバート			につき 2 箇所。	ПП
(鉄筋コンクリート二次製品)			
	施工延長(L)	-200	1施工箇所毎	1111 - 1111
	旭工建议(亡)	200		•
暗渠(現場打ボックス)	基準高(▽)	± 30	ー 両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。	
	選挙局(∨) 厚さ(t)	<u> </u>		
	字で(t) 幅(w1、w2)	- 20 - 30		
		± 30		
	高さ(h)			
	施工延長(L)	L < 20m - 50		
		L ≧20m −100		
(45.15.14)				
サイフォン (現場打)	暗渠(現場打ボックス)を適用	₹		
水路トンネル			tea manage a Autologica constitution and the second	<u> </u>
支保工	間隔(λ)	± 75	幅、間隔は、全基数について測定する。	
	幅(b) Bタイプ	- 0	支保工幅の測定時期は、原則として建込み直後及び	
	幅(b) C・Dタイプ	- 40	覆工前の2回とする。	b
				S.L.
				3.1
				<u> </u>
				3
コンクリート覆工	基準高(V)	± 50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては、1スパン	
	巻厚(t)	- 0		設計卷厚線
	幅(B)	- 40	2. 巻 厚	(D線)
	高さ(H)	- 40	(1) コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点	B ₁
	中心線のズレ(e)	直線部 ±100	において図に示す①~⑩の各点で測定する。	S.L.
	(-)	曲線部 ±150	(2)コンクリート打設後の覆エコンクリートについて	B ₂ H
	施工延長(L)	-0.1%ただし、	1スパンの端面(施工継目)において図に示す①~	
		150m未満-150	⑩の各点で測定する。	
		1001117 01 4 100	(3) 削孔による巻厚の測定は、図の①において50mに	D~®
			つき1箇所、234において100mにつき1箇所の割	削孔測定位置
			合で行う。	
			ただし、トンネル延長が100m未満のものについては	
			2箇所以上の以上の削孔を行い巻厚測定を行う。	S.L.
			4 回川以上ツ以上ツ門1Lで11 い台序側比で11)。	(S) . (6)
			2 中心独のブル	
			3. 中心線のズレ	9 2 0
			直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつ	1 + 1
1 1			き1箇所の割合で測定する。	

別表1直接測定による出来形管理

別表 1 直接側正に 工程		項目	規格値	測定基準	測定筒所
2 管水路	-	基準高(V)	± 30	基準高、中心線のズレ(直線部)については、施工延	V 47 =//
・ (コンクリー	ト二次製品)	施工延長(L)	-200	長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇	ジョイント間隔 剛定位置 (z)
水		中心線のズレ(e)	±100	所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につ	e v
路		ジョイント間隔(z)	別表ア参照	き2箇所。	V
エ				中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね、10mに1	
事管水路		基準高(V)	± 30	箇所の割合で測定する。	- (
(鋳鉄管)		施工延長(L)	-200	上記未満は2箇所測定する。	\\ \ //
(強化プラス	チック	中心線のズレ(e)	±100	ジョイント間隔については1本毎に測定する。	V,
複合管)		ジョイント間隔(z)	別表イ、ウ参照		
					q.
管水路		基準高(V)	± 50	(1)設計図書に示された基準高、あるいは埋設深、中	
	化ビニル管)	施工延長(L)	-200	心線のズレ(直線部)については、施工延長40m (測	基準高 (V) は、 V_1 、 V_2 のいずれか一方を
(1)// (1)/ (1)/ (1)	.16 - / 6/	中心線のズレ(e)	±120	点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、40m (又	測定し、管理する。
		1 2 //3 (6)		は50m	M/C o (H.E.) o
				中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね、10mに1	
				箇所の割合で測定する。前述未満は2箇所測定する。	※鋼管の適用範囲は原則として下記による。 管種 JISG 3443-1(水輸送用途覆装鋼管 - 第1部:直管)
管水路(鋼管)	基準高(V)	± 30	(1) 基準高、中心線のズレ(直線部)については、施工	WSP A-101-2009(農業用プラスチック被獲鋼管)
	,	施工延長(L)	-200	延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇	寸 法 80A~3500A 塗穫装方法 管 外 面 長寿命形プラスチック被覆 管 内 面 エポキン樹脂塗装とする。
		中心線のズレ(e)	± 45	所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につ	
				き2箇所。(2)中心線のズレ(曲線部)についてはおお	エ 法 通常の開削による布設工法とする。 管路の範囲 導水管、送水管及び配水管とし、配水池、ポンプなど端部 施工との接合部までとする。
				むね、10mに1箇所の割合で測定する。前述未満は2	施工との接合部までとする。
				箇所測定する。	
管水路基礎		幅(B)	-100	施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。	
(砂基礎等)		高さ(H)	± 30	上記未満は2箇所測定する。	
推進工(管渠)	基準高(V)	± 30	推進管1本ごとに1箇所測定する。	
		中心線の変位(水平)(e)	± 50		
		勾配	逆勾配としない。		(())
		施工延長(L)	-200	延長はマンホール間を測定する。	
連節ブロック		基準高(▽)	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	
	ートマット	盔毕同(∨)	± 50	1 箇所、40m(又は50m)以下のものは 1 施工箇所	Li
	1.491	法長(1)	-100		
		施工延長(L)	-200		
		旭工延及(L)	200		2 / /-7
					
					
					
					L ₂
					L 2
排水フリュー	4	基準高(V)	± 75	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	
				1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	
				につき2箇所。	
		施工延長(L)	-200	1 施工箇所毎	
					v
the Late 1 and					
暫定土水路		共通工事・土水路を適用			
		<u> </u>			

別表1直接測定による出来形管理

加亚	₹1直接測定による出来形管 T種		項目	-141	 格値	測令甘淮	測之签託
			児 日			測定基準	測定箇所
	頭首工・本体	基準高(▽)			30	固定堰の基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手	w ,
•	(固定堰)	幅(w)			30	箇所及び構造図の寸法標示箇所で測定。	
頭		厚さ(t)			20	可動堰は図面の寸法標示箇所で測定。	<u>-</u> '모
首		高さ(h)		+1	30		
工		長さ(L)		L < 20	m -50		h h
				L ≧20	m-100		
	護床ブロック		層積	乱積	沈床工	層積・乱積:施工延長40m (測点間隔25mの場合は	
	(異形ブロック)	基準高(▽)	±100	± t / 2	±150	50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のもの	W ₁
	(34/10) = 777	面積	<u>100</u>	なし	=100	は1施工箇所につき2箇所。	
		画復 厚さ(t)	- 20	40		層積・乱積:幅、厚さは40個につき1箇所測定。	
					1.000	眉傾・乱傾・幅、序では4V回にうる1回所例だ。	
		幅(w)	- 20	. /0	±300	B. は、は、は、大大なごと	
		延長(L)	-200	-t/2	-200	層積・乱積:1施工箇所毎	
						沈床工の基準高、幅、延長は、1組毎に測定。	
							(EO-O-Ö-
4	コンクリート被覆工	基準高(▽)			50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	<u> </u>
	アスファルト被覆工	厚さ t <			20	1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所	
河		t ≧		_	30	につき2箇所。	
Л		法長 1 <	3 m		50		
護		1 ≧	3 m	_	100		
岸		施工延長(L)			200		
Ĭ.		裏込め材厚(t	´)		50		
		3C/C 7 1777 (*	,				
5	路盤工		個々の	測定値	10個の測定値の		○施工規模の考え方
•	PH III		III		平均		UNE 1/90 PC 17073
道			ル押井いて	古祖拱17日	小 中		・中規模以上の工事とは、1層当たりの施工
路		##- N#	小規模以下	中規模以上	小 中	that the same that the same and	
工		基準高(▽)				基準高は延長40m毎に1箇所の割合とし、道路中心	面積が2,000m ² 以上かつ使用する基層及び表
		下層	\pm 50	\pm 40		及び端部で測定。	層用混合物の総使用量が500 t 以上の場合。
		上層		30			・小規模工事とは、1層当たりの施工面積が
		幅	_	50		幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。	2,000m ² 未満または使用する基層及び表層用
		厚さ				厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	混合物の総使用量が500 t 未満 (コンクリー
		下層	_	45	-15 -15		トでは400m ³ 未満)
		上層	- 30	- 25	-10 -8		○厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の
		施工延長	- 30 -2		-10 -6		○厚さは、個々の例定値が10個にも個め上の 割合で規格値を満足していなければならない
		肔丄延女		200			
							とともに、10個の測定値平均値(X10)につ
							いて満足しなければならない。ただし厚さの
							データ数が10個未満の場合は測定値の平均値
							は適用しない。
	遮断層置換土安定処理路床		售(▽)		50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき	
	工	厚	さ(t)		-50	1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工	
			畐(w)	_	100	箇所につき2箇所。	G.
		施工	延長(L)	_	200	基準高は、道路中心線及び端部で測定。	
						厚さは中心線及び端部で測定。	
							W
							, , ,
		J					

別表1直接測定による出来形管理

77748	1旦接側正による出米形官 工種		項目	規制	各値	測定基準	測定箇所
5	コンクリート舗装工		個々の	測定値	10個の測定値の平均	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線	○施工規模の考え方
•			小規模以下	中規模以上	中	及び端部で測定。	・中規模以上の工事とは、1層当たりの施工
道		基準高(▽)	±	30			面積が2,000m ² 以上かつ使用する基層及び表
路		幅	_	25		幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定。	層用混合物の総使用量が500 t 以上の場合。
エ		厚さ	_	10	-3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎	・小規模工事とは、1層当たりの施工面積が
		目地段差		± 2		に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3	2,000m ² 未満または使用する基層及び表層用
		施工延長		200		箇所以上測定。	混合物の総使用量が500 t 未満(コンクリー
						隣接する目地に対して、道路中心線及び端部で測	トでは400m ³ 未満)
		THE DI.				一定。	<u> </u>
		平坦性			コンクリート硬化後、	平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長と	○原さけ 個をの測字値が10個に 0個にしの
					3mプロフィルメーターにより、	なお、スリップフォーム工法の場合は、厚さ管理に	○厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足していなければならない
			_	_		関し、打設前に各車線の中心付近で各車線200m毎に	とともに、10個の測定値平均値(X10)につ
					(σ)2.4mm以下	水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ	いて満足しなければならない。ただし厚さの
						所以上路盤の基準高を測定し、測定打設後に各車線	データ数が10個未満の場合は測定値の平均値
					(σ)3 mm以下	200m毎に両側の版端を測定する。	は適用しない。
	アスファルト舗装工		小規模以下	中規模以上	10個の測定値の平均	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000	
	(基層工)	基準高(▽)		30	小中	$\frac{m^2}{m^2}$ に 1 個の割でコアーを採取して測定。	橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷
		幅		25	71, T	基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心	を与える恐れのある場合は、他の方法による
		厚さ	- 12	- 9	-4 -3	線及び端部で測定。	ことができる。
		施工延長		200	1 0	WAY O SIMPLY CIVINES	維持工事においては、平坦性の項目を省略す
	(表層工)	基準高(▽)	±	30			ることができる。
		幅		25			
		厚さ	- 9	- 7	-3 -2		
		施工延長	-2	200			
							1
		平坦性	3mプロフィル:	J I7			1
		平坦性		-2.4mm以下			
			直読式(足付き)				1
				=1.75mm以下			1
			(0)	1			1
							1
	敷砂利	幅(W)			100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	, w
		厚さ(t)			m -25	1箇所、40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
					$\frac{\text{m}}{1000} = -50$	につき2箇所。	t t
		施工延長(L)		_;	200	厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は	
						2 箇所、中央部で測定。	
							/
							1
							1
							1
							1
							!

別表1直接測定による出来形管理

73.33	₹1旦接側正による出米形官! 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
5 · 道路工	防護柵工 (ガードレール) (高欄)	ビーム取付高(h) 高欄設置高(h1) 高さ(h2) 高欄幅(w1) 地覆の幅(w2) 施工延長	$ \begin{array}{r} + 30 \sim -20 \\ + 30 \sim -20 \\ + 20 \sim -10 \\ + 10 \sim -5 \\ + 20 \sim -10 \\ -200 \end{array} $	1箇所/1施工箇所 1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。 1箇所/1施工箇所	MI MI MI MI MI MI MI MI
·農用地造	耕土掘り起こし	耕起深(T) 果樹 野菜	— 75 — 15	おおむね 1 ha当たり、10箇所測定するほか、つぼ掘り 2 箇所/ha	T
成	デラス (階段畑)	幅員 (B ₁) 耕起幅 (B ₂) 側溝幅 (B ₃) 側溝高さ (H)	指定した時 -150 指定した時 -150 - 75 指定した時 - 75	テラス延長おおむね100m当たり 1 箇所測定する。 - -	現地総線 B ₁ B ₂ B ₃ H
	道路工 (耕作道)	幅(B ₁) 敷砂利幅(B ₂) 敷砂利厚さ(T) 側溝幅(b) 側溝高さ(H) 施工延長(L)	-100 -100 - 25 - 75 指定した時 - 75 -200	施工延長おおむね100m当たり1箇所測定する。 - -	$\begin{array}{c c} & & & \\ \hline b_1 & & & \\ \hline & & \\ \hline & & & \\ \hline & \\ \hline & & \\ \hline & \\ \hline & \\ \hline & & \\ \hline &$
	土壤改良	PH測定	指定したとき±0.5	おおむね50a当たり、1箇所(深さ15cm)改良材散布後2週間以上経過して測定する。(試験方法…ガラス電極法…46農地C第311号参照)地表から15cmの土壌を柱状に採取し、良く混合する。	掘削 <u>表面上</u> サンプル

別表1直接測定による出来形管理

別表1直接測定によると	項目	規格値	測定基準	測定箇所
6 改良山成	基準高(V)	指定した時 ±300	基準高については切土部を40mメッシュ地点で測定	
農用地造成		,	する。 法勾配については、40mメッシュ線と切土法尻との交点で 測定する。 (測定間隔は、おおむね40m)	現地盤線 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55
7 表土扱い ・ 耕土搬入 ほ 場 整 備 工 事	厚さ(T)	-20%	10 a 当たり 3 点以上。 (標高差測定又はつぼ掘りによる)	振高測定 T
基盤整地	基準高	指定した時 ±150	10 a 当たり 3 点以上。	
整地仕上げ	均平度 ・表土扱いを伴う場合		(標高測定する)	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
	整地仕上げ	±50		***************************************
	基盤整地 (翌年仕上)	±50 ±150		V 基盤面
	・表土扱いを伴わない場合	<u>100</u>		
	整地仕上げ	±50		
畦 畔工	荒整地 (翌年仕上) 高さ(H)	$\frac{\pm 150}{-50}$	 施工延長おおむね200mにつき1箇所の割合で測定す	
	幅 (B ₁ 、B ₂)	- 50		B ₂ H
道路工 (砂利道)	基準高(V) 幅員(B ₁)	指定した時±150	幹線道路は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1箇所、40m (又は50m) 以下のもの	€.
(1974]] (1974]] [1]	幅貝(B ₁) 敷砂利厚さ(T)	$-100 \\ -25$	10mm につき 1 mm (又は50m) 以下のもの は 1 施工箇所につき 2 箇所。	Í
	敷砂利幅(B2)	-100		B ₁
	施工延長(L)	-200	支線道路は、施工延長おおむね200mにつき1箇所の割合で測定する。	
水路溝畔工	幅 (B ₁ 〜B ₄) 高さ (H ₁ 〜H ₃)	-75 指定した時 -75	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工 箇所につき2箇所。 なお、ほ場に隣接する路線については、1路線につ き、1耕区ごとに1箇所測定し、測定箇所は耕区の 平均的な位置とする。	B3 B2 H3
	施工延長(L)	-200	1 施工箇所毎	

別表1直接測定による出来形管理

万173	長1直接測定による出来形管		+H +P /-+	`Hi / → ++ `₩•	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
_	工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
7・ほ場整備	管排水路工 (高密度ポリエチレン管)	基準高(V) 中心線のズレ(e) 施工延長(L)	指定した時 ±50 ±120 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工 箇所につき2箇所。 1施工箇所毎	
事	マンホール (管排水路)	基準高(▽) 幅又は内径(w) 高さ(h) 厚さ(t)	±30 -30 -30 -20	1 箇所毎	ta to to
8 · 暗渠排水工事	吸水渠	布設深(H) 間隔(B) 施工延長(L)	−75 ±750 −200	上下流端の2箇所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。	B ₁ B ₂ B ₃
	集水渠 (支線) 導水渠 (幹線)	布設深(H) 施工延長(L)	-75 -200	施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。	MASAN H MASAN
	補助暗渠排水工	掘削幅 掘削深 被覆材厚 間隔 施工延長 疎水材袋数	設計値以上 設計値以上 設計値以上 ±750 -200 設計値以上	1 耕区につき1 渠線・1 断面を測定する。 ただし掘削幅については、疎水材心土充填機による 施工の場合は不要とする。 1 耕区につき5 間隔(6 渠線)を測定する。 1 耕区につき全渠線を測定する。 1 耕区につき1 渠線を測定する。	
9・橋梁工事	橋台工	基準高(▽) 厚さ(t) 天端幅(w₁) 橋軸方向 天端幅(w₂) 橋軸方向 敷幅(W₃) 橋軸方向 高さ(h₁) 胸壁の高さ(h₂) 天端長(1₁) 敷長(1₂) 胸壁間距離(1) 支間長及び中心線の変位	+ 20 -20 -10 -10 -50 -50 -50 -50 -50 -50 +30 ±50	「株林方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法標示箇所。	W2 W1 M2 M1
	橋台沓部	共通工事 精度を要するもの の	 項に定めるところによる		$\begin{array}{c c} h_1 & h_1 \\ \hline \\ h_2 & h_3 \\ \hline \\ \\ w_3 & \end{array}$

別表1直接測定による出来形管理

別表1直接測定による出来# 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
9 橋脚工	基準高(▽)	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸	海壁間距離
・ (張出式)	厚さ(t)	-20	法標示箇所。	支間長 .
橋 (重力式)	天端幅(w ₁) 橋軸方向	-20		
橋 (重力式) 梁 (半重力式) 工	敷幅(w2) 橋軸方向	-50		
	高さ(h)	-50		
事	天端長(11)	-50		
	敷長(12)	-50		
	橋脚中心間距離(1)	±30		
	支間長及び中心線の変位	±50		W ₁
		00		
橋脚工(ラーメン式)	基準高(▽) 厚さ(t) 天端幅(w ₁) 敷幅(w ₂) 高さ(h) 長さ(1) 橋脚中心間距離(1) 支間長及び中心線の変位	$ \begin{array}{r} \pm 20 \\ -20 \\ -20 \\ -50 \\ -20 \\ \pm 30 \\ \pm 50 \end{array} $	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法標示箇所。	W1
コンクリート桁 (ポストテンションT桁	上幅(w1) 下幅(w2) 高さ(h) 桁長、支間長(1) 横方向の最大タワミ	+10、-5 ±5 +10、-5 L<15m ±10 L≥15m ± (L-5) かつ -30mm以内 0.81	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定は箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L:支間長なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	h h

別表1直接測定による出来形管理

77.12	【1旦佞側止による山米形官】 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
9	鉄筋コンクリート床版工	基準高(▽)	±20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当	1/ 14 / %— (mid / 2)
		幅(w)	$0 \sim +30$	たり両端と中央部3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは	
橋		厚さ(t)	+20, -10	型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。(床版の厚さ	W_1 W_2
梁			·	は、型枠検査をもって代える。)	* *
工		鉄筋の有効高さ	±10	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面	<u></u>
事		鉄筋のかぶり	$0 \sim +25$	の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。	h
		鉄筋間隔	±20	1径間当たり3箇所(両端及び中央部)測定	
			±10 (有効高さがマイナスの場合)	1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角	
				方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。	
	地覆工	幅(w ₁)	$-10 \sim +20$	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。	
		高さ(h)	$-10 \sim +20$		
		有効幅員(w2)	$0 \sim +30$		
1	スプリンクラー	埋設深(H)	-50	構造図の寸法表示箇所を測定する。	
0	~/ y / / / -	生政休(II)	-50	(博坦凶の) (伝衣小画別を側足りる。	
畑					ا
畑地か					H
んが					
1/1					
事					
11	基盤整地工	基準高	指定した時 ±150	10 a 当たり 3 点以上。	
•		均平度		(標高測定する)	
公害		整地仕上げ	±50		
		基盤整地	±50		
防		荒整地(翌年仕上)	±150		
除	客土工	厚さ(T)	設計値以上	10 a 当たり 3 点以上。	
特		均平度	1.50	(標高差測定又はつぼ掘りによる)	
別土		整地仕上げ 荒整地(翌年仕上)	±50	_	
州	畦畔工	元登地(翌年14上) 高さ(H)	± 150 -50	施工延長おおむね200mにつき1箇所の割合で測定す	
改	性	向 (n) 幅 (B)	-50 -50	加工延安われびは200mにつる1箇所の制合で側足りる。	
改良		施工延長(L)	-30 -200	50。 施工延長を示さない場合は、1耕区につき1箇所の	
事		//EX_X (L)	200	割合で測定する。	
	水路工	幅(B)	-75	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	
	(十水路)	高さ(H)	-75	1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工	
				箇所につき2箇所。	
		施工延長(L)	-200	1施工箇所毎	
	道路工	幅員(B)	-100	幹線道路は、施工延長40mにつき1箇所の割合で測	
		敷砂利厚さ(T)	-25	定する。	
		敷砂利幅(B)	-100	支線道路は、施工延長おおむね200mにつき1箇所の	
		覆土厚(t)	-30	割合で測定する。	
		施工延長(L)	-200		
	かくはん工	かくはん深	+25, -30	10 a 当たり 3 点以上。(つぼ掘りによる)	

別表1直接測定による出来形管理

力リオ	長1直接測定による出来形管		1917.71	Switz U alda Sets	No. 1. Advance
	工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
12	捨石工	出来形管理基準 土木編 第7編	副河川海岸編を参照 コープログラ		
•					
海					
海岸河					
和	消波ブロック	基準高(V)	層積±300	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき	L1
世			乱積± t / 2	1箇所、40m(又は50m)以下のものは1施工箇所	w ₁
工事		厚さ(t)	-20	につき2箇所。	
7		幅(w)	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	 - - - - - - - - - - - - - - - - -
		延長(L)	-200		
					'
					.2000
13	集排水ボーリング	せん孔方向(θ)	±2.5°	全数測定。	
		配置誤差(d)	100		d > 1
地		削孔深さ(1)	設計値以上		
地す			33111 1112 3 1111		
~					H '
Ŋ					×
り工事					
事					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$
,					
	集水井工	基準高(▽)	± 50	全数測定。	w
		偏心量(d)	150	偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	^d 入 一
		長さ(L)	-100		
		巻立て幅(w)	- 50		
		巻立て厚さ(t)	- 30		
					×
					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$
14	堤体盛土	基準高(V)	-0	線的なものについては施工延長おおむね20mにつき	!
•		堤幅 遮水 (W)	-0 , +500	1 箇所の割合で測定する。	, , , w,,
た		その他(W ₁)	-100	上記未満は2箇所測定する。	
め		法長(L ₁ 、L ₂ 、L ₃)	-100		
池工事		施工延長(L)	-200		$\frac{\mathbf{w}_2}{\mathbf{L}_1}$
エ					
事					L ₂
					₩ ₩
	グラウトエ	深度(L)	設計値以上	全数測定。	
		配置誤差(d)	100		
				7	

別表1直接測定による出来形管理

77.12	₹1旦接側正による出来形官 工種	項目	規格値	測定基準	測定箇所
14・ため池工事	洪水吐工	基準高(V) 厚さ(T) 幅(B) 高さ(H) 中心のズレ(e) 直線部 曲線部 施工延長(L) スパン長(L) 直線部 曲線部	± 30 ± 20 ± 30 ± 30 ± 30 ± 50 ± 100 -150 ± 20 ± 30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレについては、施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。	E B ₁ T ₂ T ₃ T ₄ B ₂ T ₅
15 · 公園緑地工事	樹木植栽工	樹高 目通り周(芝・付周) 葉張径	-0 -0 -0	高中木 樹種毎 200本未満 5 %以上 500本未満 4 %以上 1000本未満 3 %以上 低木 樹種毎 200株未満 3 %以上 1000株未満 1. 5 %以上 2000株未満 1. 8 %以上	
	地覆類植栽工 支柱工 (木材、竹材) 敷地造成工 (広場造成に適用)	樹高 辺長	$ \begin{array}{r} -0 \\ -50 \\ -100 \\ -0 \\ -0 \\ \pm 60 \end{array} $ $ \begin{array}{r} -1 \% \\ -300 \\ -1 \% \\ -2 \% $	総辺数の1/3以上 樹木植栽工に同じ 1施工広場3箇所以上測定し、変化点は変化点ご とに測定する。	

別表ア 管水路(遠心力鉄筋コンクリート管)のジョイント間隔管理基準値

		5372 RC管 形管)		5372 R C 管 形管)	
15万 アドクヌ (**** ****)	(参考)	規格値	(参考)規格値		
呼び径(mm)	良質地盤	軟弱地盤	良質地盤	軟弱地盤	
150	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
200	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
250	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
300	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0	
350	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0	
400	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
450	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
500	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
600	+23 0	+13 0	+19 0	+29 0	
700	+21 0	+12 0	+19 0	+29 0	
800	+24 0	+13 0	+19 0	+29 0	
900	+26 0	+15 0	+19 0	+29 0	
1, 000	+32 0	+18 0			
1, 100	+33 0	+19 0			
1, 200	+35 0	+21 0			
1, 350	+37 0	+22 0			

- 注) 1. 管理基準値は、接合時の値であり、4箇所の平均値とする。
 - 2. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 - 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径800 mm以上に適用する。

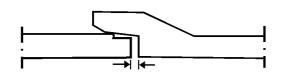
なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻し完了時点とする。

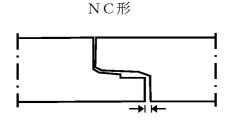
4. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。 規格値は参考図に示す位置を測定するものとする。

〈参考図〉ジョイント間隔測定位置

(1)内面から計測する場合

B形及びNB形



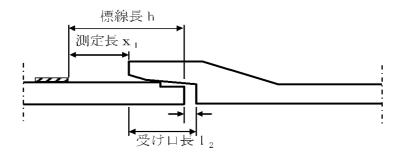


JIS A 5372 RC管 (NC形管)					
呼び径(mm)	標準値	(参考)規格値			
1, 500	5	+24 +5			
1,650	5	+24 +5			
1,800	5	+24 +5			
2,000	5	+24 +5			
2, 200	5	+24 +5			
2, 400	5	+27 +5			
2, 600	5	+27 +5			
2, 800	5	+27 +5			
3,000	5	+27 +5			

(2)外面から計測する場合

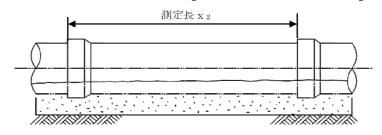
1)標線による計測

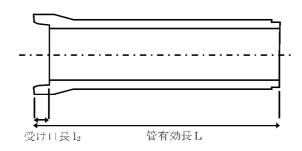
ジョイント間隔=受け口長 1_2 - (標線長h-測定長 x_1)



2)標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔=受け口長 1_2 - (標線長h-測定長 x_2)





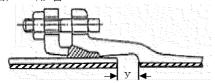
+11 +42	JIS G 5526・5527及びJDPA G 1027	(単位:mm) JIS G 5526・5527及びJDPA G 1027・1029
規格	K形	T形(直管)
呼び径 (mm)	(参考)規格値	(参考)規格値
75	+19 0	+16 0
100	+19 0	+16 0
150	+19 0	+16 0
200	+19 0	+14 0
250	+19 0	+14 0
300	+19 0	+24 0
350	+31 0	+24 0
400	+31 0	+24 0
450	+31 0	+24 0
500	+31 0	+30 0
600	+31 0	+30 0
700	+31 0	+30 0
800	+31 0	+30 0
900	+31 0	+40 0
1,000	+36 0	+40 0
1, 100	+36 0	+40 0
1, 200	+36 0	+50 0
1, 350	+36 0	+50 0
1,500	+36 0	+60 0
1,600	+40 0	+70 0
1,650	+45 0	+70 0
1,800	+45 0	+80 0
2,000	+50 0	+90 0
2, 100	+55 0	_
2, 200	+55 0	_
2, 400	+60 0	_
2,600	+70 0	_

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均値とする。
 - 2. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 - 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径800 mm以上に適用する。

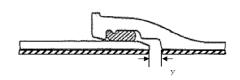
なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻し完了時点とする。

4. ダクタイル鋳鉄管のうちK形管・T形管のジョイント間隔測定値及びU形管の標準値は参考図のy寸法である。yの測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。

〈参考図〉K形管

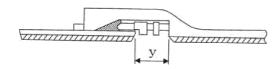


T形管



+11 +1/2	JIS G 5526・5527及びJDPA G 1027・1029	JIS G 5526 • 552	7及びJDPA G 1027
規格	T形(異形管)	U形	
呼び径 (mm)	(参考)規格値	標準値	(参考)規格値
75	+16 0	_	_
100	+17 0	_	_
150	+18 0	_	_
200	+16 0	_	_
250	+14 0	_	_
300	_	_	_
350	_	_	_
400	_	_	_
450	_	_	_
500	_	_	_
600	_	_	_
700	_	105	+32 -5
800	_	105	+32 -5
900	_	105	+32 -5
1,000	_	105	+33 -5
1, 100	_	105	+33 -5
1, 200	_	105	+33 -5
1, 350	_	105	+35 -5
1, 500	_	105	+35 -5
1,600	_	115	+33 -5
1,650	_	115	+33 -5
1,800	_	115	+33 -5
2,000	_	115	+36 -5
2, 100	_	115	+36 -5
2, 200	_	115	+36 -5
2, 400	_	115	+36 -5
2,600	_	130	+36 -5

〈参考図〉U形管



- 5. JDPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) 呼び径は以下のとおり。
 - ・T形及びT形用継ぎ輪:300~2,000、K形:300~2,600

JDPA G 1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) 呼び径は以下のとおり。

- T形: 250~700、U形: 800~2,600
- JDPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) のT形用継ぎ輪ジョイント間隔は、 JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形に準じる。
- 6. JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形、U形のジョイント間隔は、JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管) のK形、U形に準じる。
- 7. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。

別表ウ 管水路(強化プラスチック複合管)のジョイント間隔管理基準値

+11 +1/2	J I S A5350				
規格	B形、C形及びT形				
	(参考)規格値				
呼び径 (mm)	標準値	() 内数値	() 内数值		
		良質地盤	軟弱地盤		
200	0	+33 0	+22 0		
250	0	+33 0	+22 0		
300	0	+38 0	+25 0		
350	0	+38 0	+25 0		
400	0	+43 0	+28 0		
450	0	+43 0	+28 0		
500	0	+53 0	+35 0		
600	0	+53 0	+35 0		
700	0	+53 0	+35 0		
800	0	+53 0	+35 0		
900	0	+53 0	+35 0		
1,000	0	+53 0	+35 0		
1, 100	0	+53 0	+35 0		
1, 200	0	+53 0	+35 0		
1, 350	0	+53 0	+35 0		
1, 500	0	+53 0	+35 0		
1,650	0	+80 0	+53 0		
1,800	0	+80 0	+53 0		
2,000	0	+95 0	+63 0		
2, 200	0	+95 0	+63 0		
2, 400	0	+113 0	+75 0		
2, 600	0	+113 0	+75 0		
2, 800	0	+128 0	+85 0		
3,000	0	+128 0	+85 0		

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均値とする。
 - 2. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を 超えてはならない。
 - 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径800 mm以上に適用する。

なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻し完了時点とする。

- 4. 継手部の標準断面図は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法yである。なお、
- 5. 測定値は、受口部長さの製品誤差によりマイナスとなる場合がある。

